

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300546		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」にしありえ	ユニット名	
所在地	長崎県南島原市西有家町龍石1417-1		
自己評価作成日	2020年9月15日	評価結果市町村受理日	2020年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年10月30日	評価確定日	2020年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな静かな地域で、利用者の皆さんやご家族が安心して楽しく生活していただけるよう、一人ひとりの状態に合わせて支援させていただき、今までの生活歴全職員が把握し、その方にあった日常生活を送っていただき、自由な時間を過ごしていただいています。また、コロナで制限がありますが、ご家族との面会もガラス越しで行い、電話での連絡を密にし、利用者の皆さんや職員といつでも気軽に話せるよう努め、家庭的な環境を提供しています。子供たちとの触れ合いも少なくなっていますが、法人内の行事や子供デいの慰問で継続しています。法人の合同活動が出来なかった分、荘内でのレク活動などを充実させるようにしています。合同活動(音楽療法・太鼓練習)も10月から再開しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム「城下」にしありえ”に入居すると、次第にお元気になる方が多い。明るく、優しい職員がご利用者に寄り添い、ご利用者の思いや要望を大切にされた個別ケアが行われ、ご本人のできることを日々の役割として担って頂いている。コロナ禍でも変わらず楽しい生活になるためのアイデアを増やされており、天気の良い日は人混みを避けて毎日外出し、ドライブや花見等を楽しみ、ホームの駐車場でミニ運動会を楽しまれたり、職員が電子ピアノを弾いて合唱を楽しまれる機会も増えている。玄関には季節の花が咲いており、買物の時にご本人の好きな花を選んで頂き、ご利用者個々のプランターに花植えをして頂いている。畑で季節の野菜を収穫し、日々の食材に使われたり、畑で収穫した柚子を湯船に浮かべて香りを楽しまれるなど、新管理者を中心に良きチームが作られている。今後もご利用者個々の有する能力等の記録を増やしていく予定にしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関、ロッカールーム、トイレなど目につくところに掲示し、常に意識し実践につなげている。	長く勤務する職員が多く、「老いても障害を持って当たり前前に自分らしく普通に暮らしたい」と言う理念を大切にされている。新しい職員も優しく、ベテラン職員の丁寧な指導で日々理念の実践に努めている。ご利用者と干し柿作りをされたり、電子ピアノを職員が弾いて、楽しく唄われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方や保育園との交流を続けている。	隣家の方から差し入れを頂いたり、保育園の先生が七夕飾りを届けて下さった。高校生の実習や中学生福祉体験学習の受入れと共に、コロナ以前は法人の夏祭りに小学校のスポーツチームが出店を手伝って下さったり、地域神輿の立ち寄り、お話し会、こども消防パレード見物、蔵めぐり等をしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験や、高校生の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見等あった場合は、サービス向上にいかすようにしている。	コロナ禍も1月・5月・9月等は開催することができた。ホームの取り組みや行事報告、職員の研修報告と共に、災害対策(ハザードマップ)や地域行事などの話し合いをしている。地域の情報交換もできており、猪の出没状況を共有し、柵対策を検討したり、夏祭りの報告等も行われている。	現在の参加者と共に、今後は更に議題に応じた更なる地域の方へのお声かけを増やし、「認知症」及び「認知症ケア」の理解と一緒に深めていきたいと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で状況を報告したり、学習会などでも交流をはかり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設長が広域に出向いており、疑問点を相談した時は丁寧に説明して下さる。広域連合や役場の方とは顔馴染みで、相談しやすい関係ができています。南島原市の保健師の方が運営推進会議に参加して下さい、ホームの取り組みを理解して下さい、包括の方とも情報交換を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待廃止委員会を中心に研修会など行い、全職員が理解し徹底して取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会や勉強会を続けると共に、職員のストレスケアも大切にしている。入院時に「つなぎ服」を使用していた方も、ホームでは使用しないケアができ、“身体拘束の無い”生活をされている。ご本人の性格や生活背景を理解し、ご本人の想いに寄り添った生活になるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が設置しており、虐待をしなことが理解されており廃止に取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などで学ぶ機会を設けてあり、当施設でも一名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用相談時に、本人や家族に対し十分な説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に尋ねるようにしており、玄関に目安箱を設置しアンケートを書いていたようにしている。	面会時に体調や暮らしぶりを報告している。新聞を作成し、担当者から手書きのお手紙を郵送している。家族から「法事に参加させたい」という希望があり、職員が車いすを押して一緒に参加させて頂いたり、コロナ禍も窓越しの面会を行ったり、電話での情報交換を続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議や毎日のミーティングでも提案や意見を聞いてもらっている。	職員会議・各担当者会議(行事・防災・身体拘束虐待廃止委員会等)を行い、職員個々のアイデアが増えている。新管理者は同ホームで長年介護職をされていた方であり、他の職員と良きチームが作られており、職員個々の特技(歌、ピアノ、料理、作品作りなど)も発揮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生活に合う労働条件で働けている。資格、職務手当などもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加する機会を設けてあり、資格取得を進められる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スポーツ大会や親睦会など交流する機会をつくってある。		

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談以外でも会う機会を設けてしっかりコミュニケーションを図り、家族からの情報も参考にして信頼関係に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時だけでなく、電話などでも耳を傾け良き関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とのコミュニケーションをとり、最も必要とされる支援の提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も一緒に行い、本人が出来ることをしてもらったり、おしえてもらったりし、感謝の言葉を忘れないようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙で、本人の様子や状態を伝え、体調についてなど家族と相談しながら支援する関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナで難しくなっているが電話やなじみの場所へのドライブなどで支援している。	思い出の場所をドライブしている。馴染みの神社や山、海沿いのドライブを楽しまれたり、職員とお墓参りに行かれたり、馴染みの鍼灸院にお連れする方もおられる。コロナ以前は友人や元同僚の方々も来て下さり、居室やリビングで団欒されていた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、仲の良い利用者同士席を近くにしたり、そうでない場合は、スタッフが関わるなど孤立しないよう努めている。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も来られる家族もいらっしゃる。必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から一人ひとり、声をかけ話を聞くことで、把握に努めている。	入居前に病院やケアハウス等を訪問し、顔馴染みになれるように努めている。入居後も思いや意向を把握し、「畑や田んぼを見たい」「お墓参りに行きたい」「外出したい」等の願いを叶えている。コロナ前は管理者が自宅訪問し、家族から要望を伺ったり、電話で情報交換されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションや、家族から話をきくことで、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックや申し送り帳、日常記録などから状態を把握しに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や職員間で話し合い、ご家族の意見も取り入れながら作成している。	ご本人や家族の意向と職員全員の意見を反映すると共に、音楽療法や和太鼓練習の参加、日々の役割等も記入している。介護日誌の“キーワード”欄に計画内容を転記し、実践状況を記録している。前回の外部評価以降、日課表に各活動の「できること」「留意点」を増やされている。	今後も【基本情報1】に生活歴を増やすと共に、アセスメントにADL(立位・歩行等)、IADLの「能力」「できそうな事(可能性)」「介助理由」「目標」「解決策」等の記録を増やしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録に記録し、職員間で情報を共有しながら実践し見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出など利用者や家族のニーズに応えられるよう柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの鍼灸院やかかりつけの病院など、なじみの場所を利用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はかかりつけ医にお願いしているが、かかりつけ医がない場合は、施設のに協力医おねがいしている。	職員が通院介助しており、必要時は家族も同席し、受診結果を共有している。法人の看護師(週1回)や菜の花クリニックの看護師(必要時)の訪問があり、ホーム内で点滴や喀痰吸引が行われている。毎日協力医の往診があり、緊急時にもすぐに対応して下さる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を把握し、週一回の訪問看護師や協力医療機関の看護師に相談しアドバイスしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、本人が安心されるよう度々面会に行き、担当医や看護師との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し、契約時に説明し同意を得ている。また、かかりつけ医にもその意向を報告し協力を得ている。	希望に応じて終末期ケアが行われている。医療の希望も把握し、24時間体制で施設長、管理者、かかりつけ医、法人の看護師、クリニックの看護師との連携が図られている。体調に応じて家族間の話し合いをして頂き、今後の方針を検討すると共に、家族も一緒に誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を受けたり、マニュアルがさくせいしてあるので、いつでも見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練を防災委員がとなって、定期的に行っている。また、夜勤者が防火自主点検票にチェックし火災を起こさないよう気を付けている。	2ヶ月毎に自主訓練している。毎年11月9日(119の日)に、消防署、消防団、地域住民と夜間想定訓練をしている。消防団の中の3人の方は地元であり、直接ホームに来て下さる。自然災害(台風等)を想定した訓練も行い、訓練の検証もしている。災害に備えて災害バックや水(3日分)、米、食料、手動式ラジオ等の準備と共に、ご利用者が避難する事業所を法人全体で共有し、各事業所に利用者の情報シートを渡している。	

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、自尊心をきずつけないこえかけをしている。	ご利用者の事を話す場合は小声で話したり、自室で相談させて頂いている。「身体拘束に繋がる言葉かけをしない」「ちょっと待って」等の言葉は使わず、「待って」の前に理由を伝えている。失禁時は耳元で声かけし、小さな声で排泄状況の確認をしている。個人情報管理の研修も続けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をしやすいような雰囲気作り(声掛け、傾聴)をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせ、希望に沿った支援をしているが、その日の人員不足によりできないときもある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スキンケアや髪形、洋服選びなどその人らしくできるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ出来ることをしてもらい、一緒に準備から片付けまで行っている。	調理専門職員が美味しい料理を作られている。1日・15日は赤飯等を楽しみ、栄養バランスに配慮しながら、その日に献立を考えている。調理担当者が休みの日は配食を利用している。ご利用者と畑の野菜を収穫し、筍掘りやわらび採りに出かけ、フキや野菜の皮むき等もして下さる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、水分を取りにくい方には、変わるもの(果物、ゼリーなど)で摂っていただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせた口腔ケアをおこなっている。歯間ブラシも活用している。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用によりパターンを把握し誘導している。	排泄が自立している方や、布の下着(パッド)を着用する方もおられ、パッド等の使用も個別に検討している。施設長が排泄ケアの講義をして下さり、日々のケア効果も出ており、失禁が減った方もおられる。尿意・便意を把握し、事前誘導や2人介助も行われ、快便に繋がっている方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表でペースを把握し、腸内環境を良くする発酵食品や食物繊維の多い食物をとっていただいている。水分をしっかりとってもらい、牛乳を飲んでもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の予定(外出など)で決まってしまうが、その中でも体調や希望に沿って支援している。	お風呂好きな方が多く、2人で仲良く入浴される方もおられる。入浴時は会話や歌を楽しまれ、菖蒲湯や畑で収穫した柚子を浮かべている。広いお風呂であり、湯船の階段を降りる時は職員が支える時もあり、2人介助も行われている。できるところは、ご自分で洗われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に応じて休息したり、日中、活動的に過ごしていただくことで、夜間安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表により、全職員が確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの出来ることで役割を持っていただき、一人ひとりの好きなこと・ものなど聞き出して日々取り入れ楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って出かけるようにしている。毎日のようにドライブに出かけ、行きたいところを利用者に尋ねるようにしている。	天気の良い日は、人混みを避けて毎日外出している。ご利用者と握り飯やお弁当を作り、「みそ五郎公園」でお弁当を食べたり、季節の花見を楽しんでいる。小浜の足湯、大村の菖蒲見学にお連れしたり、家族と外食や温泉(雲仙)に行かれる方もおられる。買物にお連れし、化粧水や編み物の毛糸を買われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていないが、本人の希望により買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に換気をし、温度や湿度にきをつけている。季節の花や植物、製作物など飾り、季節感や生活感をとりいれている。	玄関に一人一人のプランターを置き、花植えをして頂いている。玄関や廊下、リビングに観葉植物が置かれ、行事や外出の写真を貼り、会話のきっかけになっている。リビングから畑を眺める事ができ、散歩時に花を摘み、花好きな方に季節のお花を活けて頂いている。季節に応じてお雛様を飾り、季節や月がわかるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子を配置し、気の合う利用者が好きなどころで過ごせたり、独りになれたり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまで使用されていたものを自由にもってきていただいている。家族との写真を貼る。	洋室と和室があり、電動ベッドを利用する方もおられる。筆筒や座イス、時計、テレビ、家族の写真等を置かれており、観葉植物も元気に育っている。居室の入り口に段差がある所もあり、ご本人が手すりを持って出入りされたり、手すりがない箇所は椅子を置き、手すり代わりに活用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所、台所、各自の居室など表示をしてわかりやすくしている。手すりの設置やバリアフリー化も行っている。		